

平成30年度「GKP広報大賞」エントリーシート

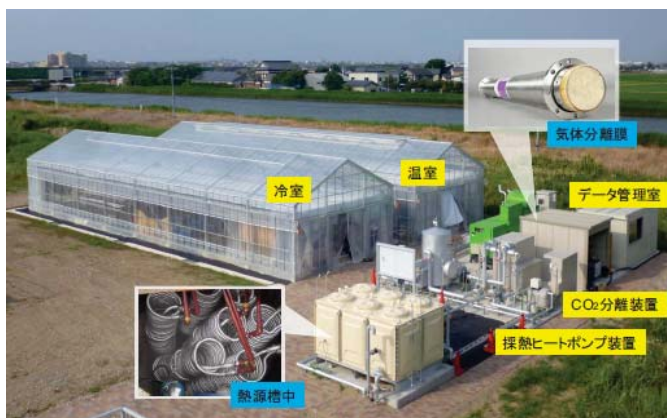
エントリーする団体名の名称 東亜グラウト工業株式会社	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 管路メンテグループ 企画部 平野 美礼 TEL 03-3355-1531 FAX 03-3355-3107 e-mail : mirei.hirano@toa-g.co.jp
代表者氏名 代表取締役社長 山口 乃理夫	

部門名 <b>民間</b> 部門	事例名 下水道から美味しい「ワサビ」が!?
---------------------	--------------------------

事例の概要（適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい）

■ 産官学が連携して実証

平成27年度より、新潟県協力のもと長岡技術科学大学、東亜グラウト工業(株)、積水化学工業(株)、(株)大原鉄工所、高砂熱学工業(株)が西川浄化センターにおいて、下水資源・エネルギー再利用の新しい可能性を実証する「ルネッサンス システム」を開始しました。このシステムの特徴は、膨大な熱エネルギーを持つ下水処理水から採取した熱エネルギー、下水汚泥消化ガス発電から排出した排気熱、そしてCO<sub>2</sub>を処理場施設周辺に設置した農業ハウスに提供する取り組みです。



■ 下水熱で希少価値の高い植物を栽培

温室では下水の温熱を利用し冬場でも室温は18℃以上に保たれるため、グアバやマンゴーなど50種類以上の熱帯植物を栽培。そして冷室では、ワサビ、イチゴや他に人工栽培の成功例がない梅花藻を栽培しており、下水の冷熱はクーラーだけではなく、ワサビや梅花藻に必要な冷たい水を作り出すためにも活用されています。また植物の成長促進に欠かせないCO<sub>2</sub>を循環させることによって栽培に最も適した環境を作っています。

■ 循環型社会の実現に貢献

下水に秘められた力で低コスト、高効率、かつ付加価値の高い農業生産を確立することで、地方創生さらには循環型社会の実現に貢献します。



エントリー事例の特徴（施策等そのものの特徴ではなく、施策等を発信する広報戦略及びその効果が優れていると考えている点を明記願います）

★下水道処理場での初の熱利用という取組みがメディアに多数取り上げられ、一般の方々の下水への関心度がアップ！テレビ新潟（TeNY）、新潟テレビ21（uxテレビ）、新潟放送（BSNテレビ）、日刊建設工業新聞、下水道情報、日本水道新聞、建設通信新聞、水道産業新聞、新潟日報など

★施設は県政学習の一環として一般公開や学校の社会科見学に度々使用され、一般の方々や子ども達が収穫物を食べることで下水への抵抗感が払拭され、下水のイメージアップに繋がります。

付属資料の提出  あり ・ なし （どちらかに○）